

公園内で見られる植物

写真は5月4日（木）
自然観察会で見られた
植物です



コツクバネウツギ（スイカズラ科）

花がツクバネウツギより小さいことからコ（小）が付いています。花の色はコツクバネウツギの方は淡いクリーム色をしています。花の後ろに付いているプロペラのようなガクが5枚あるのがツクバネウツギ、2枚～3枚あるのが、コツクバネウツギです。よく見ないと区別しにくいですね。



ツルカノコソウ (オミナエシ科)

オミナエシの姿に似ている事から、仲間のカノコソウと同じく、ハルオミナエシという別名があります。つぼみの形が鹿の子模様に見える事からカノコソウですが、ツルが付いていてもこれは蔓性というのではなく、細い茎を地面に出し、その先に新しい株を付けて繁殖するのでこう呼ばれます。



チチコグサの仲間 (キク科)

茎の下で枝分かれています。茎も葉も綿毛で覆われています。この公園には、ウラジロチチコグサが多く見られますが、これはどれでしょうか？



チャルメルソウ (ユキノシタ科)

花の浅い鐘形が、中国の楽器チャルメラに似ていることからこの名が付いたようです。かわいらしい形をしていますね。先日登った船通山への道すがら、湿った場所や谷川の縁に沢山生えていました。



オオイヌノフグリ (ゴマノハグサ科)

コバルトブルーのかわいらしい花です。ブルーは目に鮮やかに写ります。名前の意味を想像すると気の毒ですが、命名されたのは「日本の植物学の父」牧野富太郎博士ですから……。犬フグリは春の季語になっています。



ウコギ (ウコギ科)

中国原産で「五加」と書きます。読みにすると「ウーコー」これに「木」を付けて「五加木：ウコギ」となったようで、古くから薬用として日本に伝えられ、5枚葉と幹に刺があるのが特徴です。独特の香りは春の山菜の代表的なものですね。



ムラサキサギゴケ (ゴマノハグサ科)

田のあぜ等、少し湿った所に多くみられる多年草。白い花はサギゴケと言い、紫色で形がサギ(鷺)に似ている事から、この名が付いています。



キラソウ (シソ科)

「キ」は紫の古語で「ラン」は藍色の意味で、花の色から名付けられたとか？別名「地獄の釜の蓋」という恐ろしい名前を持っていますが、万能薬として知られています。万病に効くところから、医者殺しとも言われます。



オカタツナミソウ (シソ科)

ほぼ同じ高さに集まった細長い淡い紫色の花が数個付いていますね。名前の由来「タツナミ」は花が揃って一方方向を向いていて全体の花の形態が「波」が立っているように見えることからですが、必ずしも花は一方方向を向いていないのがオカタツナミソウの特徴です。



コバノガマズミ (スイカズラ科)

小さい白い花が密集して付いているので遠くからでも目につきますが、花の時期と実の季節でないと見逃してしまうことが多いです。コバナなので、小さい葉のイメージですが、葉の形には変異がありガマズミと区別しにくいです。でも葉はビロードのような手触り感があり、心地よいですよ。



ウリカエデ (ムクロジ科?)

ウリカエデの実には羽根のような形をしていて風に吹かれてよく飛ぶようになっています。これから赤みを帯びてきます。樹皮が瓜の模様によく似ているのでこの名が付いています。